

病虫害発生予察特殊報 第3号

害虫名 クモヘリカメムシ

学名 *Leptocorisa chinensis* Dallas

1 発生物種 水稻

2 発生経過

平成 15 年 8 月上旬に南信農業試験場が行ったすくい取り調査で、飯田市の雑草地（イヌビエ主体）において本種が捕獲された。その後、8 月下旬に農事試験場が行ったすくい取り調査で、南信濃村及び天龍村の水田において成虫及び幼虫が捕獲された。このことから、長野県内で本種の生息していることが確認された。本種は本州（関東）以南に広く分布し、長野県に隣接する岐阜県、愛知県、静岡県、山梨県、埼玉県、群馬県では斑点米を発生させる加害種となっているが、これまで県内での生息は確認されていなかった。

3 形態

ホソヘリカメムシ科。成虫の体長は 15～17mm。体色は黄緑色で、前翅は褐色である。頭部及び前胸背前縁部の両側に黒褐色の縦帯がある。若齢幼虫は緑色で、生育すると黄緑色になる。卵は長径 1 mm 程度の杯状。産卵直後は淡緑色であるが、その後赤銅色となる。

4 生態と被害

成虫で越冬し、年 2 世代を経過する。越冬成虫は初めイネ科雑草に飛来し、その後水田に侵入する。イネの止葉から 1 枚下位の葉、止葉に 20～30 粒の卵塊を産卵する。成虫は比較的活発に水田内を飛翔し、夜間には灯火にも飛来する。イネの収穫時期になると周辺雑草に移り、その後、杉林等の越冬場所に移動する。

成虫及び幼虫が登熟初期から後期まで稲穂を吸汁加害する。登熟初期に加害された場合、しいなや屑米が多くなり、多発すると減収をもたらす。登熟中期以降に加害された場合、変形粒及び斑点米粒が発生する。本種の加害形態は縫合部加害が主で、内外穎の間に口器を刺し込み子実を吸汁する。

アカヒゲホソミドリカスミカメやアカスジカスミカメ等のカスミカメ類と歩行侵入型のコバネヒョウタンナガカメムシやトゲシラホシカメムシ等は水田周辺部での密度が高い傾向がある。それに対して、クモヘリカメムシは飛翔能力が高く、また、イネへの依存性が比較的に強いいため水田全体に分布する。

5 防除対策

発生の確認された地域及び周辺の地域では、翌年度以降の作付において防除が万全となるよう次の対策を行うこと。

- (1) 水稻のカメムシ類に適用のある薬剤で防除する。茎葉散布剤の防除適期は成虫飛来期及び幼虫発生期であり、穂揃期（発生が多い場合は、10 日後に再度散布）に薬剤散布を実施する。
- (2) ほ場周辺のイネ科雑草が発生源になるので草刈りを徹底する。なお、出穂前の畦草刈りは 2 週間前頃に行う。

クモヘリカメムシ写真

(写真提供:長野県農事試験場病害虫土壤肥料部)



写真1:クモヘリカメムシ成虫



写真2:クモヘリカメムシ幼虫